LIFE in SHINSHU 03

森暮らしと小さなアトリエ

Builder：リアライズ　Place：軽井沢町　Family：夫婦

石畳の通りが目の前にあり、近隣には手入れの行き届いた庭が広がる。人の気配と、豊穣な森の静けさ。その両方を兼ね備えた稀有な環境に、K邸は立ちます。敷地の形状に合わせ、2つの建物をデッキでつないだ個性的な佇まい。上質な暮らしを楽しむKさん夫妻を訪ねました。



A

B

C | D

A_リビングの先のテラスで、緑を眺めて過ごす贅沢な時間。カッコウやホトトギス、ヒグラシの声に癒される暮らし。　B_住宅部分の外壁は、シックな黒。和綿で糸を紡いだり、草木染めをしたりする奥様は、「気持ちが晴れる場所にアトリエを構えたかった」と言う。　C_天然木の外壁が山小屋を思わせる、アトリエと店舗の建物。軽井沢駅前のアウトドア用品店「パタゴニア」の建物から着想を得て、軒天井にも木をあしらった。D_2つの建物を結ぶのはヒノキのデッキ。奥行き60m余りの細長い敷地を有効活用した。



旧宿場町の森の中にリタイア後のセカンドハウスを

ご主人が定年でリタイアした折には、軽井沢で別荘暮らしをしたいと考えていたKさん夫妻。数年前から土地を探し、見つけたのが、旧宿場町にある細長い敷地でした。近くには、お庭のきれいなお宅と石畳のアプローチがあり、高く枝を伸ばしたモミジが青々と葉を茂らせています。「ここなら隣に住宅が建つこともないし、気持ちのいい借景が望める。かつての宿場町らしく、人の行き来がほどよくありつつ、森の中のようでもある。訪れたときは雑木林のような場所でしたが、ピンときたんですよね」

そんな敷地形状に沿うようにして、平屋風のK邸は建築されました。通りから見える、天然木の外壁が温かみを感じさせる建物は、草木染めや和綿の織物を手がける奥様のアトリエと店舗として活用する予定。デッキを進むと奥にも建物があり、そちらが夫妻の住まいです。黒のタイルとサイディングで、アトリエの建物とは雰囲気を変えたモダンな佇まい。都内、赴任先、そしてここ軽井沢と、現在は三拠点を行き来する日々です。









E
F
G

H
I
J | K

E_美しく手入れされた隣地の苔庭と石畳が、見事な借景に。　F_浅間石の石垣を積み、高さに変化をつけた。樹齢の長いケヤキの木を1本残し、根を守るためにデッキの位置を工夫してもらったと言う。G_壁付きキッチンは視線が抜け、空間にゆとりを感じさせる。　H_インスタグラムで見つけた山形･山本製作所のペレットストーブを導入。遠赤外線効果で保温性、蓄熱性に優れ、一度火を入れると家中がじんわりと暖まる。鋳物のレトロな佇まいもおしゃれ。　I_松本の作家さんによるヤマザクラのテーブル。経年変化で飴色になるのを心待ちにしているそう。J_コーヒーはハンドドリップで抽出。K_奥様が染めてつくった鍋ミトン。自然の風合いと優しい色が素敵。

人との縁、土地との出合いが
もたらした、とびきり豊かな空間

設計施工を手がけたのは、軽井沢の気候風土を熟知し、自然環境に溶け込む洗練された住まいを得意とするリアライズ。「この土地を購入した当時、不動産会社で担当してくださったのが、今はリアライズの営業の田中さんだったんです。建築会社に転職されたと聞いて、ご縁を感じて」と奥様。打ち合わせはオンラインで。厳しい建築規制や条例のある地域でしたが、着実にクリアしながら、親身になって二人の要望を取り入れてくれたと話します。

ご夫妻が望んだのは、山小屋風の小さな家。お子さんたちは独立し、基本は二人暮らし。定年退職後は東京との二拠点生活を想定していたことから、いくつもの部屋は不要でした。1階には約19畳のLDKと寝室、水周りを配置。階段を上がった先には17畳のロフトがあり、ご主人が寝室代わりに使ったり、お子さんが友人を連れて遊びに来たときに利用したりしています。

リビングからテラスに通じる南側の窓、そしてデッキと隣地のアプローチに面した西側の窓からも、みずみずしい緑を家中に取り込んでいます。窓を開けると涼やかな風が巡り、今夏はエアコンを一度も使わなかったとか。ダイニングの椅子や、ソファに座れば、あふれる自然に全身が包まれるよう。鳥の声、木々の葉が風になびく音。「家にいながら森林浴をしているみたい」と奥様は話します。そして、軽井沢の冬の寒さまでも楽しんでいる様子。「外の空気がキーンとして心地いいんです。床暖房と鋳物のペレットストーブで、家の中は一日中快適。火を見ると安らぎますね」





















自然と調和する、二人にちょうどいい家。アップデートするアトリエも楽しみ

月に2回、計10日ほど、この家に滞在するKさん夫妻。白とグレー、木をベースにしたリビングで、晴れやかな時間を過ごしています。「二人には十分な広さ。吹き抜けのおかげか、面積以上にゆったりと感じます」。何よりの楽しみは、デッキにアウトドア用のテーブルとチェアを出し、爽やかな空気の中で朝食を味わうこと。季節の移り変わりを肌で感じながら、森を眺めて心身がリフレッシュするひとときです。

今後はアプローチをつくり、もともとこの地にあった十数本のイロハモミジを植え直す予定。「秋に土地を見に来たとき、紅葉がそれはそれは美しかったのです」

そして通りに面した建物の一部は、テイクアウトの惣菜店に賃貸する計画が進行中。アトリエでは、奥様が染めや織りの作業をしたり、生活工芸品を販売したり。「草木染めに使う草花を、この土地で育てられたら」と夢も膨らみます。小さな住まいとアトリエとお店。森の中に、暮らしが豊かになるような、楽しい拠点が生まれそうです。

L
M
N
O | P
Q

L_キッチン上部のルーバーの上がロフトスペース。冬、ペレットストーブで暖まった空気は2階へ上がり、家のどこにいても心地いいと言う。　M_キッチンは、グレーをベースにトータルコーディーネートして、落ち着きのある空間に。　N_リビング部分は吹き抜けにして空間にメリハリを。東側にも明かり採りの窓があり、ここからもモミジが見える。　O_テラスでくつろぐのが二人のお気に入り。シソやバジルも育てている。　P_立派なケヤキの木とウッドデッキ。今後は、雑木の庭づくりを得意とする「小森造園」に、森の中の通路のような庭をつくってもらう予定だとか。　Q_深い森に包まれたK邸。

OWNER　Kさん

POINT 1　信州に暮らしてよかったこと

幼少期の小諸での生活が懐かしく、長野の地を選びました。冬の寒さは厳しいものの、四季をしっかりと感じられる軽井沢に魅力を感じています。

POINT 2　家づくりでよかったこと

地域独自の規制があり地元の会社が頼りになります。断熱性に優れ、都内の自宅よりも快適なほど。細かな変更にも嫌な顔をせず応じてくださり感謝です。

POINT 3　先輩としてのアドバイス

夏季の工事中止期間や凍結等による施工不能期間が長いため、建築スケジュールには余裕が必要です。植栽や造園に時期調整が必要な点も想定外でした。

リアライズ 株式会社
北佐久郡軽井沢町大字長倉1259-78
0267-31-0460（代）
https://riaraizu.jp